令和8年度（2026年度）研究紀要

令和8年度（2026年度）宝塚市教育委員会指定公開研究会
宝塚市立光明小学校　特別活動・国語科公開研究会

本時学習指導案集

支え合い　高め合う　仲間づくり

～言葉をふやし、言葉にこだわり、思考を深める子ども～

13:00~13:20　児童集会（体育館）

13:45~14:30　公開授業

14:45~15:30　事後研究会
場所：低学年　1－1教室
中学年　4－1教室
高学年　6－1教室
ふたば　学校図書館

15:45~　全体会・講演会（4階多目的室）

◆討議の柱（事後研究会）・・・ 研究テーマに迫ることができていたか。

[第１学年]	話し合いの進め方について、比べることと深めることの両方を柱としたことは適切だったか。
[第２学年]	柱を「どんな絵を入れるか」「どんなポジティブ言葉を入れるか」として、それぞれ２つずつ決めることにした。柱の設定は児童の実態に対して適切だったか。
[中学年]	言葉をふやし、言葉にこだわり、思考を深める子どもを育てるために本時の発問や授業展開は、適切だったか。
[高学年]	話合いを通して、子供のつながりと考えの深まりを生み出せていたか。
[ふたば]	少人数での話合い活動では、互いの意見を生かし、自分の意見を伝えることができていたか。









児童集会活動案

2026 年 11 月 27 日（金）
指導者　永樂　俊樹

1　活動名　　本音で　トーク集会

2　活動のねらい
○ 本校の特色である、異年齢の子どもたちからなる集団（縦割り班）による自治的活動を促進すること。
○ 学年の多様性を大切にしながら、テーマについて自分事として捉え、本音を出し話し合うこと。

3　事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11 月 9 日 きらきらタイム	集会の流れを考える。	前回までの集会で、役割分担や時間配分についてふり返ったことを生かすよう助言する。
11 月 17 日 代表委員会	学校統合に向けたアンケートを実施することを伝え、協力を呼び掛ける。	全校生が自分事となるよう、アンケートの内容について考えるよう助言する。
11 月 18 日 朝休み	集会の準備を進める。 アンケートを集約する。	場の設定や役割分担とリハーサルも含め、本番に向けて準備をするよう声かけをする。
11 月 20 日 児童集会 1 回目	本音でトーク集会 1 回目を行う。 ・悪口や意地悪をなくすには、どうすれば良いか。 ・自分だけ意見が違うと周りに合わせてしまう。どうしよう。	会の流れを全体で共有することができるようにする。
11 月 20 日 4 時間目	集会のふり返りから、時間の使い方、司会の話し方、6 年生全体がどのように活動するか確認する。	一人一人がより良い集会をつくる努力をするように励ます。
11 月 27 日 児童集会 2 回目 (本時)	本音でトーク集会 2 回目を行う。 ・知らない人がたくさんいる中で、大きな声であいさつできるかな。 ・末成小学校や高司中学校の人たちと友だちになれるかな。	前回の反省を活かし、よりよい集会を目指せるように、具体的にイメージを共有し、深めていく。

4　教師の指導計画（本時：2 回目）

活動の順序	指導上の留意点
・全校斉唱「ありがとうの花」（1 分） ・はじめの言葉（1 分） ・代表者が悩み事を発表する（1 分） ・縦割り班で相談する（3 分） ・発表（3 分） ・代表者が悩み事を発表する（1 分） ・縦割り班で相談する（3 分） ・発表（3 分） ・おわりの言葉（1 分） ・ふり返り（3 分）	・全校生が本音を出しやすいと感じるために、みんなで良い雰囲気をつくるよう、事前に　助言する。 ・それぞれの役割を確認する。 ・時間配分の通りに進められるよう見通しをもち、自主的に活動できるように支援する。 ・全校生が自分事として捉え、話し合ったことのふり返りが発表できるよう、確認しておく。 ・温かい雰囲気の中で、質問したり、切り返したり、ゆさぶったりすることで、本音を出させたい。

第１学年１組　学級活動（１）指導案

2026 年 11 月 27 日（金）５校時
児童数 25 名
指導者　濵田　梨乃

１　議題　　１－１オリンピック集会を開催しよう
（ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決）

２　議題選定の理由

○　本学級の児童は、学級会での話合い活動に対して非常に意欲的であり、互いの意見を聞き合いながら合意形成を図ろうとする姿が見られる。また、話合いの中で疑問や違和感を抱いた際には、物怖じせずに声を上げ、より良い方向へ修正しようとする主体性も育ってきている。

一方で、授業中やさまざまな取組の中で、自分の殻を破れず、勇気を出せない場面もある。思いやアイデアをもっていても、自信のなさや失敗への不安から一歩を踏み出せず、慎重になってしまい、本来の力を発揮できないことがある。そこで、本議題を通して、仲間と共に前向きに挑戦しようとする態度を養いたい。

○　本議題は、「運動会では色々な競技に挑戦することができた。まだ勇気が出せない時があるので、運動を通して勇気を出してチャレンジしたい。」という児童の願いから生まれたものである。運動会も終わり、様々な競技を知った中で、勇気を出せる競技や協力できる競技について話し合う。みんなで勇気を出して一つのことに取り組む価値を感じさせたい。

○　話合い活動では、児童が司会進行を行い、自分たちの力で多様な意見を生かして合意形成をしていくことを目指す。１年生にとって司会グループが全体をまとめることは難しいが、司会グループが「どうしてそう思いますか」と理由を問いかけたり、「今はどんな話し合いになっているかな」と現在の状況を確認したりできるよう、寄り添いながら見守っていく。

話合いが難航する場面では、指導者が「勇気を出せる」という本時の柱に立ち戻れるように介入する。児童の意見を丁寧に引き出し、児童の言葉によって話合いがまとめられていくよう、助言や価値付けを行う。

具体的には、意見を比較検討する場面で「勇気を出せるのはどちらかな」と問いかけたり、板書を視覚的に整理したりすることで、一部の意見だけでなく、全員が納得できる意見で合意形成できるように支援する。この活動を通し、他者の思いを尊重しながら、集団としてより良い人間関係を築いていくことを目指す。

３　目指す子どもの姿

・「勇気を出せる」という柱に沿って話し合う姿
・意見のつながりを意識して話すことができる姿

４　評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解している。	議題について自分の意見をもち、他者の意見を聞いて考えを深めたことを表現している。	学級生活を楽しくするために、進んで学級会に取り組もうとしている。

５　事前の活動

日時	児童の活動　（☆全員　★計画委員会）	指導上の留意点・支援
11 月 12 日 きらきらタイム	☆議題を選定し、決定する。	「この活動でどんな学級にしたいか」という視点をもって選定する。
11 月 19 日 休み時間	★活動計画（提案理由・めあて・司会グループの役割）を作成する。	提案理由やめあてを、分かりやすく具体的に設定するよう助言する。
11 月 24 日 きらきらタイム	☆議題と提案理由を確認して学級会ノートに自分の意見を書き、司会グループに提出する。	意見が具体的になるよう助言する。
11 月 25 日 休み時間	★意見を分類し、比べる段階で出される論点を予想し、話合いの見通しを立てる。	意見を分類・整理し、板書計画を立て順序立てて話し合えるよう司会グループに助言する。

６　本時のねらい

・「勇気を出す」というめあてを持って、みんなで何をするかを考え、決めることができる。

7　児童の活動計画（別紙）

8　教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら、予め板書しておく。	
話合いをする。 柱１　勇気を出すことができる競技を考えよう 出し合う ・大なわ ・とびばこ 比べる ・勇気を出せる。 ・みんなでする価値がある。 ・連続してできる。 ・できたら嬉しい。 深める 決まった競技について、どんな工夫をすれば勇気を出せるのかを出し合いながら深めていく。 ・手をつないでとぶ。 ・押してあげる。 ・声をかけて、跳びやすくする。 ・練習する。 柱２　役割を決める ・司会、はじめの言葉 終わりの言葉、タイマー、準備 決まったことを確認する。	比べる ・短冊で整理しながら、勇気を出せる競技を考えられるよう支援する。 ・実演することで具体的に集会が想像できるようにする。 深める ・出た意見が自分たちの力でできるかを全員で確認し、合意形成を図る。 ・実演することで具体的な勇気を出すための方法を想像できるようにする。	【主】 ・自分の考えを積極的に発言しようとしている。（フロアの発表） 【知・技】 ・実際の集会のイメージを持って話合いに参加している。（観察） 【思・判・表】 ・柱や提案理由に沿って、意見を比べて、より良いものを考えている。（観察・フロアの発表）
教師の話を聞く。	・提案理由に沿って話していた児童や、自分の意見を進んで言えていた児童、友達の意見をよく聞いていた児童を評価する。 ・司会グループの良かった点を具体的に伝え、次の話合いへの意欲を高める。	
話合いをふり返る。 ①司会グループ ②フロア	・自分が話合いの中で頑張ったことや友だちの意見の良さを書くように助言する。	【主】 自分や友だちの良さについてふり返ろうとしている。（ふり返りの内容）

9　事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月1日(火) 学級会	集会活動	役割やり遂げることができるよう支援する。	【主】進んで自分の役割を果たそうとしている。（ふり返りの発表）

☆討議の柱
本時では、話し合いの進め方について、比べることと深めることの両方を柱とした。どちらか１つに絞った方が良かったのかを検討していただきたい。

第２学年１組　学級活動（１）指導案

2026 年 11 月 27 日（金）５校時
児童数 26 名
指導者　澤田　強志

１　議題　　ぜったいに元気でえがおになろう　がっきゅうのはたを作ろうしゅう会をしよう
（ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決）

２　議題選定の理由

○　本学級の児童は、普段から困っている友だちのそばに駆け付け、助けようとする姿が見られる。しかし、休み時間などに遊ぶ友だちは固定化してきており、特定の友だちがいないと遊ぶ友だちがいないと困っている児童がいる。また自分の気持ちや思いを言葉で伝え合う力が未熟である。そのため、言葉が足りず友だちを傷つけてしまうことがあった。そこで、友だちの話を最後まで聞くこと、耳と目と心で聴くことなど、日常生活や国語科の学習を通して相手を大切にする話し方や聞き方を指導し、友だち関係を自分から広げてみようと働きかけてきた。学級会では、多くの友だちと遊べるようになりたいという願いをきっかけに話合いと集会を実践し、自分たちの課題として捉え、取り組んでいるところである。

○ 本議題は、「みんなで一つの物をつくりあげたい、みんなで協力したら学級目標（協力、挑戦、なかよしマックス）につながる。また、見ると元気が出て学校に来たくなるような旗を作ることで、みんながもっと安心して登校できるようにしたい。」という願いから提案された。本学級の課題についてアンケートを取ったところ、言葉づかいがきつい、悪口を言われる、仲間外れにされるという意見が見られた。また学校に行きたくないと思ったことがある児童も多数いた。そこで学級活動（２）でどうすればみんなが安心して登校できるか話し合い、解決策を考えた。本議題は、その話合いよりも前に提案されたが、見ると元気が出て学校に行きたくなるような旗作りについてみんなで話し合い考えることが学級の仲間意識を高め、登校渋りの児童の安心感につながると考え、選定した。どのように作るのかは決めておき、旗にどんな絵を入れるか、どんな言葉を入れるか観点を絞り考えさせる。学級の象徴である旗を考えるプロセスの中で、学校に行くことを不安に思う児童の気持ちに寄り添うことができ、みんなで考える価値のある議題である。

○ ２学期の話合い活動では、提案理由を確かめ、何のために話し合っているかに立ち返りながら話合いや集会を実践した。しかしまだ何について話し合っているか理解が追いつかず、話合いについていけない児童もいる。そのため､分からないことをそのままにせず自分から尋ねることが相手を大事にすることにつながると伝えてきた。

司会グループには、提案者の思いを念頭に置き、合意形成を行うときには、みんなの納得解を見つけることを目指すよう指導しておく。司会の進行に不安を持つ児童もいるため、フロアからも司会グループを助けたり、助言したりして良いことにしている。またフロアの児童には、ただ自分の意見を言うだけでなく、不安に思う人の解決策を考えたり、分からないことを質問したりするなど、意見をつなげて建設的に意見を出しながら話合いを進めることに価値があると指導しておく。

柱１は「どんな絵を入れるか」、柱２は「どんなポジティブ言葉を入れるか」である。話合いで、絵のイメージを共有できるように児童の考えた絵を掲示しておく。また提案理由を元に比べやすいように、児童の考えた絵を似たもので分類、整理しておく。４つ程度意見が出てくると考えられるので、２つに決めるようにする。数を限定することで、それぞれの意見がなぜ学校に行きたくなることにつながるのか理由を比べやすいようにする。

３　目指す子どもの姿

・分からないことや疑問に思うことを出し合いながら建設的に話合いを進める姿
・提案理由や提案者の願いに立ち返りながら、意見を出し合い、比べる姿

４　評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「どんなデザインを入れるか」で出し合った意見を、見ると元気が出て学校に来たくなるような旗という観点で比べることを理解している。	見ると元気が出て学校に来たくなるような旗に必要な絵や言葉を考え、それぞれの良さを比較し、意見を活かし合いながら合意形成を図り、実践している。	学級の課題を自分事として捉え、自分の意見を発信したり、分からないことを共有したりしながら、集会の実現に向けて協働して取り組もうとしている。

５　事前の活動

日時	児童の活動　（☆全員　★計画委員会）	指導上の留意点・支援
11 月 19 日 休み時間	☆議題の決定 ★計画委員会で提案理由と柱を考える。	提案理由やめあてを、分かりやすく具体的に設定するよう助言する。

11 月 20 日 学級活動	☆議題と提案理由を確認して自分の意見を学級会ノートに書く。	登校したくなるような絵や言葉を考えるという観点を確かめて考えられるよう助言する。
11 月 25 日 休み時間	★みんなの意見を確かめ、意見を分類し、話合いの計画を立てる。	板書計画を立て順序立てて話し合えるように助言する。
11 月 26 日 朝の学習	☆出し合うことを事前にしておく。	同じ意見や似た意見を司会グループと一緒に分類し、比べやすいようにする。

6　本時のねらい

・みんなが見ると元気が出て学校に行きたくなるような旗を作りたいという思いに寄り添い、友だちの意見を生かしながら、旗に入れる絵や言葉を考えることができる。

7　児童の活動計画（別紙）

8　教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら、予め板書しておく。 出し合うことは、事前に終わらせておく。	
話合いをする。 柱１　どんな絵を入れるか 比べる ・顔（笑顔） ・手をつないでいる人 ・虹 ・夕日 ・動物 分からないことを質問する。 賛成理由と不安な理由を述べる。 解決策を考える。 まとめる ・賛成理由を比較し、絵を２つ決める。 決まったことを確認する。 柱２　どんなポジティブ言葉を入れるか 比べる ・ありがとう ・がんばってるね ・やってみよう まとめる 決まったことを確認する。	決まっていることを確認しておく ・学級目標を入れる　・旗の大きさ ・グループに分かれて絵を入れる ・絵は２つ、言葉も２つに決める 比べる ・分からないことは、質問するように促す。 ・提案理由に沿って発言するよう助言する。 ・話合いの柱がずれた場合は、何を話し合っているか立ち止まらせる。 ・提案理由に沿って賛成理由を述べ、良さを比べるよう声をかける。 ・短くまとめられるように黒板記録に助言する。 まとめる ・黒板を整理する時間を取り、分類を手伝う。 ・より多くの人の意見を生かせるようなまとめ方を考えるように司会グループとフロアに伝えておく。 ・決まったことに対して納得できるか提案者やフロアに確認し、全員の意思表示を待つように助言する。 比べる ・提案理由に沿って賛成理由を述べ、良さを比べるよう声をかける。 まとめる	【主】 友だちの意見を真剣に聞き、分からないことや疑問を出し合い、解決しようとしている。（司会・フロア発表） 【知・理】 ・見ると元気が出て学校に来たくなるという観点で賛成理由や反対意見を述べている。（司会、フロア発表） 【思・判・表】 ・出し合った意見について、観点に沿って話し合い、合意形成を図っている。 （フロア発表）
教師の話を聞く。	・提案理由に沿って話していた児童や新しくアイデアを出した児童、話合いの流れを大きく変えた児童の発言を取り上げ、評価する。 ・司会グループに具体的に良かった点を全員の前で紹介することで、次の実践活動への意欲を高める。	
話合いをふり返る。 ①司会グループ ②フロア	・自分が話合いの中で頑張ったことや友だちの意見の良さを書くように助言する。	【主】 自分や友だちの良さをふり返り、具体的に表現している。（フロア発表・学級会ノート）

9　事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12 月 9 日（水）	集会活動	役割をやり遂げることができるようにする。	【主】進んで自分の役割を果たそうとしている。（ふり返りの発表）

☆討議の柱

本時では、柱を「どんな絵を入れるか」「どんなポジティブ言葉を入れるか」として、それぞれ２つずつ決めることにした。柱の設定は児童の実態に対して適切だったか。

第３学年１組　　国語科学習指導案

指導者　小西　哲也

1.日時　　2026 年 11 月 27 日 金曜日　５校時
2.単元名　　民話の面白さを伝え合おう「私はこう読む　こう感じた」
教材名　　「三年とうげ」（李綿玉 作　　光村図書）
「ももたろう」　「シナの五にんきょうだい」　「くいしんぼうシマウマ」
「わらのうし」　「かたあしのひよこ」　「はしれ！カボチャ」

3.授業づくりの視点

(1)教材分析

「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話である。民話独特の語り口には楽しいリズムがある。朝鮮半島の農村の雰囲気を存分に表現した挿絵とともに、イメージを膨らませたい。また、ちょっとした機転で不幸を幸せに転じたとんち話の側面もあり、昔の人々のおおらかな心情は、時代を超えて私たちにも伝わってくる。昔の人々の生きる知恵を楽しく学ぶと同時に、その時代の人たちがどのようなことを恐れ、感謝しながら生きていたかを読み味わいたい。発想の転換をモチーフにした物語から、万国共通の民衆のたくましさ、したたかさを感じ取ることができると良いだろう。

「三年とうげ」がどのようなところかを、言い伝えとともに解説した第１場面、おじいさんが「三年とうげ」で転んでしまい、病気になってしまう第２場面、トルトリが登場して機転を利かせた提案をする第３場面、おじいさんが提案を実行して元気になる第４場面、という構成である。

「三年とうげ」には「くり返しや語り口のリズム」「登場人物の言動」「発想の転換という話の仕組み」など、物語の面白さを捉えるための明確な視点が備わっている。これらの視点は世界中の民話や昔話にも共通する特徴であるため、他作品を読む際に活用しやすい。物語の面白さを「登場人物の行動の愉快さ」に感じるか、「とんちによる逆転の仕組み」に感じるかなど、読み手によって着目するポイントや感じ方に多様な違いが生まれやすい作品でもある。本教材で読みの視点を獲得した上で、同じ民話を読んだ友だち同士で「どこを・なぜ面白いと感じたか」を交流することで、他者の視点を取り入れながら民話の新たな魅力に気づき、自分の読みを広げる学習へとつなげることができる。

(2)児童の実態

本学級の児童は、物語を読むことに対して意欲的である。しかし、登場人物の行動や会話、挿絵を根拠に想像を膨らませて読み進められる児童は少ない。これまでの国語科の学習では、叙述をもとに登場人物の心情の変化を捉えたり、自分の考えを整理して書いたりする活動に取り組んできた。また、ペアやグループでの話し合い活動にも前向きに取り組む姿勢が育っている。

本単元の導入から並行読書を行い、読んだ本を記録・整理できる「マトリクス表」を活用して、自分の読書量や選んだ作品の広がりを視覚的に捉えられるようにする。「もっと多くの民話を読んでみたい」「マトリクス表を埋めていきたい」という内発的な意欲を高め、朝読書や給食の配膳時間を活用しながら、主体的に読書に取り組ませる。

児童は多くの作品に触れて、読むことの楽しさを味わうことはできる。しかしながら、「面白かった」「すごかった」という言葉で感想を表現することが多く、語彙が乏しい。

同じ物語を読んでも、「どこ（どの言葉や場面）に面白さを感じたか」「なぜそこに着目したのか」という感じ方の違いを比べ合い、自分の読みを深めるところまでは至っていないのが現状である。

(3)指導にあたって

本単元では、人物の行動や場面の様子に着目し、人物の心情を読み深める学習を設定した。主に２つの力をつけることをねらいとしている。まず、１つ目は、人物の心情の変化、場面の様子を捉え、優れた叙述について自分の思いや考えを広げながら読む力である。「三年とうげ」の学習では、叙述や挿絵を手がかりに、登場人物の行動や会話から場面の様子を具体的に想像させる。その上で、「出来事の面白さ」「くり返しの面白さ」「表現の面白さ」という民話ならではの面白さを捉える視点を児童とともに整理し、他の民話を読む際のポイントとして触れておく。

２つ目は、様々な世界の民話を読み、読書の幅を広げる力である。第３次に向けた事前指導としてお気に入りの一冊を選ばせ、上記の視点を生かした「紹介カード」を作成させる。その際、「どの言葉やどの場面からそう感じたのか」という根拠を明確にしながら感想や考えを書かせる。これにより、

一人一人が自分の考えに自信と根拠をもって話し合いに臨めるようにする。
本時のペア学習においては、同じ民話を読んでいても、登場人物の言動に心を惹かれる児童もいれば、とんちや発想の転換といった話の仕組みに感心する児童、あるいは語り口のリズムやくり返しの表現に面白さを見出す児童もいるであろう。友だちと意見を比べ合う中で、自分とは異なる着目点や感じ方の違いに気づかせ、「そういう見方もあったのか」「そこにも面白さがあるのか」と他者の視点を取り入れながら民話の新たな魅力を発見し、自分の読みが深まり広がっていく楽しさを実感させたい。

4.単元の指導目標と評価規準

<table>
<tr><td>単元目標</td><td colspan="3">◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。【思Ｃ（１）イ】
◎引用のしかたを理解し使うことができる。【知（２）イ）
◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。【(知（３）オ】
◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思Ｃ（１）オ】</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価規準</td><td colspan="2">知識及び技能</td><td>・引用のしかたを理解し使っている。【(２)イ】
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。【(３）オ】</td></tr>
<tr><td>思考力
判断力
表現力
等</td><td>読むこと</td><td>・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。【Ｃ（１）イ】
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。【Ｃ（１）オ】</td></tr>
<tr><td colspan="2">主体的に学習に取り組む態度</td><td>登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。</td></tr>
</table>

5.単元の流れ（全９時間）

構想の柱	単元の流れ	指導上の留意点	評価
	〈みとおす〉１時間 ・教科書 P.78・79 を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に単元の学習課題を確かめ、学習計画を立てる。 **〈みつける〉** ・教科書 P77「この本、読もう」を見て、民話や昔話の読み広げに意欲をもつ。 ・世界には、古くから語り継がれてきた民話や昔話がたくさんあることを知り、並行読書を行う。	・学校図書館や市立図書館から民話の本を借り、教室でいつでも読めるように環境を整えておく。	・学習課題を理解し、通しをもって学習計画を立てている。 ・幅広く読書に親しみ、読書が様々な知識や情報を得ることなどに役立つことに気づいている。
	〈ふかめる・ひろげる〉７時間 ・「ももたろう」を読み、紹介カードを書く。	○あらすじの書き方を以下のとおり指導する。 ① だれが 中心人物の名前。 ② どうした 中心人物にどんなピンチや出来事が起きたか。	・登場人物やあらすじなど、民話の大体を捉えている。

		③ どうがんばった 解決のために中心人物が何をしたか。 ④ 結末 どうなったか。	
	・私の一推しポイント（私の面白さ）を書き、友だちに紹介する。	○面白さを伝える際に「面白い」ではなく、表現を工夫させる。 （心に残った・心惹かれた・感動した・興味を持った・お気に入りのなど） ○着目した観点や面白いと思った理由の違いなどを意識させる。	・面白さを伝える表現を工夫して書いている。
	・「三年とうげ」を読み、あらすじや書かれ方を確かめる。	○教材文を読んで、登場人物やあらすじなどを簡単に把握させる。 ○設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなど、文章のどこに書かれているかを、線を引きながら確かめさせる。	・「三年とうげ」のあらすじを把握している。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどに線を引いている。
	・「おじいさん」の変化を捉える。	○「おじいさん」の行動や様子を表す表現に着目して読み、前時同様に線を引かせる。	・「おじいさん」の行動や様子を表す表現に着目して読み、線を引いている。
	・「三年とうげ」を紹介する文章を書く。	○「ももたろう」で学習したことを生かし、あらすじと一推しポイントを書かせる。	・「ももたろう」で学習したことを生かし、あらすじと一推しポイントを書いている。
	・紹介カードを活用し、「三年とうげ」の面白いところを伝え合い、自分と友だちとの違いを比べる。	○着眼点の違い（登場人物の行動を見るか、話の仕組みを見るか等）や、他者の視点を取り入れることで物語をより深く味わえることに気づかせる。 ○同じ民話を読んでも、面白いと思う点が異なることに気づかせる。	・友達の紹介文を読み、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。 ・文章を読み合い、気づいたことを伝え合うなどして、積極的に感想を交流している。
	・世界の民話からお気に入りの1冊を決め、紹介カードを書く。	○引用の仕方について確かめる。	・引用文については、かぎかっこを使用し、文章そのままを書きぬいている。

	〈ふりかえる〉1時間 〈本時1/1時間〉 ・同じ本を選んだ友だちと紹介カードを読み合い感想を交流し、単元の学習をふり返る。	○着目した観点や面白いと思った理由の違いなどを意識させる。	・友達の紹介文を読み、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。

6.本時の学習〈〈ふりかえる〉9/9時間〉

（1） 本時の目標

・同じ民話を読んだ友だちと面白いと感じた理由を伝え合うことを通して、着眼点の違いに気づき、新たな民話の魅力や自分の読みの広がりを実感することができる。

（2） 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　本時のめあてを確かめる。		
「同じ民話について、友だちと意見を交流し新しい面白さを発見しよう。」		
2　同じ民話を読んだ友だちと紹介文を交流する。	○ペアで交流し合う。 ○同じ本を読んだ友だち同士では 「どこを面白いと感じたのか」 「なぜそこに着目したか」の違いを比べながら交流させる。 ○本文を指し示しながら交流させる。	・民話の面白さを自分の言葉で意欲的に伝えようとしている。 ・同じ作品に対する友だちとの感じ方の違いに着目し、根拠となる場面や理由を比べ合うことで、物語の新たな魅力や自分の読みの広がりに気づいている。
	○「友だちの意見を聞いて、発見した新たな魅力」 →・着眼点の違い（登場人物の行動を見るか、話の仕組みを見るか等）や、他者の視点を取り入れることで物語がより深く味わえることに気づかせる。	・友達との交流を通して、民話の多様な面白さや感じ方の違いに気づいている。
3　単元の学習をふり返る。	・単元のふり返りを書く。	・単元全体をふり返り、民話の面白さや他者との感想の違いを通して学んだこと、並行読書による読書の幅の広がりについて書いている。

☆討議の柱

言葉をふやし、言葉にこだわり、思考を深める子どもを育てるために、本時の発問や授業展開は適切だったか。

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者　成迫 由起

１．日時　　2026 年１１月２７日（金曜日）　　第５校時

２．単元名　新美南吉が描く、動物と人間の心の通い合いを読もう

教材名　「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」　新美南吉作品

３．授業づくりの視点

（1）教材分析

本教材は、ひとりぼっちが故にいたずらばかりするごんと、母を亡くしてひとりぼっちになった兵十との関わりが、美しい描写とともに描かれており、叙述と関連付けながら人物の心情や人物同士の関係を読み取るのに適した教材である。登場人物、時や場の設定、時間の経過がつかみやすく、作品の山場も捉えやすい。物語の山場につながるきっかけは、ごんは興味本位でいたずらをし、兵十がとった魚やうなぎを逃がしてしまうことである。兵十の母は、「うなぎが食べたい」と言いながら死んだにちがいないとごんは思い込んでしまう。兵十の母の死は自分のせいだと思い込み、ごんは兵十につぐないを続ける。兵十に心を寄せていくごんの心情は、行動や様子、言葉にわかりやすく表れている。つぐないの気持ちと同時に、同じひとりぼっちという境遇にも心を重ね、ますます兵十に心を寄せていくごんの姿が分かりやすく描かれている。

つぐないを続けても、兵十は神様の仕業だと思い、引き合わないと感じながらも、ごんは栗を届ける。最後の場面では兵十に撃たれてしまうが、自分だと気づいてもらうことができ、安心しうれしく思うごんの心情が描かれている。善意でしたことが相手に伝わらず、悲劇的な結末を迎えるはかなさや、孤独な者同士の心のふれあいを描いている。本作品の多くの部分は、ごんの視点で書かれている。そのため、ごんの心情を捉えやすく、毎日栗や松たけを届けるごんの健気な姿に心を重ねて読み進めることと思う。

本作品は、人物の心情や情景を表す描写が豊かに表現されている。「空はからっと晴れていてもずの声がキンキンひびいていました。」「すすきのほには、まだ、雨のしずくが光っていました。」等の情景描写から、場面の様子や人物の心情を読み取ることができる。特に最後の一文は、「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」と括られており、場面や人物の様子、心情を深く読み取ることができる表現である。

新美南吉は、動物や虫、木等、自然の生き物が登場する作品を多く手掛けている。「でんでんむしのかなしみ」「木のまつり」は、生き物たちの心が描かれた作品である。また、「ごんぎつね」以外に、動物と人間が心を通わせることをテーマにした作品「手ぶくろを買いに」がある。この物語は、母親の愛と温かさ、子ぎつねに対する人間の素朴な優しさが美しい描写とともに描かれている。

南吉のものの見方や考えは、１５歳の時に日記に記された内容「ストーリーには、悲哀がなくてはならない。悲哀は愛に変わる。」からもよく分かる。悲しみがあるからこそ、心が通い合った時に喜びがあると考え、それを作品にも描いている。最後の場面で、南吉が書いた草稿は「ごんぎつねは、ぐったりとしたまま、うれしくなりました。」とある。悲しい場面ではあるが、その悲しみがあるからこそ、心の通い合いがあると作品から伝わってくる。

本単元では、新美南吉作品の多読を行う。南吉作品を読み広げることで、新美南吉のものの見方や考え方、作品に込められた思いや願いに触れることができる。「ごんぎつね」だけでなく、多くの作品を重ねて読むことで、作品に共通するものを見つけたり、作者の思いや願いに気づいたりする読み方もさせたい。

（2）児童の実態

本学級の児童は、４月に物語文「白いぼうし」を学習している。物語文の学習では、人物の行動や会話から人物像を捉えることを学んだ。自分の考えを伝える際には、根拠、理由とともに伝えるという学習経験をした。また、言葉の意味を考え、言葉を広げることも大切にした。「はっとする」「たくし上げる」とは、どんなことか、他の言葉で表現するとしたら、どんな言葉が相応しいか、また、「はっとする」を使って一文を作る等、言葉にこだわるという経験をした。

児童の実態として、４月当初は、聞く力の弱さ、言葉で自分の考えを正しく伝える弱さ、はっきりと大きな声で話す力の弱さを感じた。これらの力をつけるために、各教科、領域において、話し合い聞き合う活動を多く取り入れた。全員が話す機会をもつために、ペアで意見を伝え合う活動を続けてきた。

学習や生活の場面で、自分の思いを伝えるための語彙の少なさも課題であると感じる。漢字から言葉の意味を捉える力も弱い。読み取ったことを自分の言葉で伝える際に、言葉の広がりが少なかったり、言葉の意味を捉え違えたりすることも多い。辞書で調べる際、意味を読み上げることはできても、本当の意味を理解したり、会話の中で使ったりする力も弱い。

叙述を根拠に理由付けをしながら自分の考えをもつ力の弱さも感じる。説明文の学習では、考えの根拠となる言葉、文章、写真や絵などの資料と関連付けながら読む学習を行った。この力をつけるためには、文章の細かい点まで丁寧に読むこと、言葉の意味を理解しながら読むこと、言葉と言葉を関連付けながら読む力が必要になる。文脈から言葉の意味を想像すること、言葉の意味や使い方を辞書で調べ、正しく使うこと、類義語を知ること等、語彙を増やすことが読みの力につながるため、授業の中で丁寧に行うようにした。人物の心情や場面の様子を読み取るために基本となることを一つ一つおさえながら、言葉を増やし、言葉にこだわり、自分の思考を深めることを大切にする学習を重ねていきたい。

（３）指導にあたって

本単元では、人物の行動や場面の様子に着目しながら、人物の心情を読み深める学習を設定した。そして、主に次の２つの力をつけることをねらいとする。まず、１つ目は、人物同士の関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の思いや考えを広げながら読む力である。「ごんぎつね」は、人物の心情の変容が分かりやすい。また、場面の様子が鮮明に描かれているため、児童は作品に引き込まれていくことと思う。作品を全体として捉えて読むことで、人物の心情の変化を出来事とともに味わいながら読ませたい。また、行動描写とともに、情景描写に着目して読むことで、作品をより深く味わうことができる。そのために、言葉や文章の細かい点に着目し、自分の考えの根拠となる部分を明確にしながら読み取ることを行う。

２つ目は、読み取ったことや考えたこと、想像したことを伝え合う力である。自分の考えが伝わるよう言葉を選んで分かりやすく伝える力を身につけさせたい。また、友だちの考えを聞いて自分の考えを広げ深めたり見直したりしながら考えを構築するという聞く力も身につけさせたい。そのためには、伝え合う必然性のある問いを与えることや伝え合う場の設定が重要になる。自分の考えを伝え、友だちの考えを聞くことで、さらに自分の読みを広げ深められるような問いを設定すること、また、学習形態も工夫しながら学習を進めることが重要だと考える。

本単元では、読み取ったことをアコーディオンブックにまとめることを中心の言語活動として位置づけた。アコーディオンブックとは、自分の読みをワークシートにまとめたものを貼り合わせて横に長くし、１枚につなげたものである。それを蛇腹折りにして１冊の本にする。アコーディオンブックとして１枚にまとめる良さとして、読み取ったことが１枚で分かること、学びを繋げて考えられること、物語全体を捉えて読めることである。ごんと兵十の行動や心情について、物語全体を通して捉えることに役立てていく。

本教材では、新美南吉作品の多読を行う。教科書教材「手ぶくろを買いに」の他、「でんでんむしのかなしみ」「木の祭り」「去年の木」等の作品も読ませていく。多読する中で、作者である新美南吉の考え方にも触れながら学習を進める。作者と作品を重ねて読むことで、より深く作品を味わうことができるため、本単元で行い、高学年教材の「大造じいさんとガン」「やまなし」につなげていきたいと考える。言葉のもつ良さを感じながら、読書を大切にし、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる子供を育てたい。

4. 単元の指導目標と評価規準

<table>
<tr><td>単元目標</td><td colspan="3">◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。【知（１）オ】
◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思Ｃ（１）オ】
○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる【思Ｃ（１）エ】</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価規準</td><td colspan="2">知識・技能</td><td>言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。【（１）オ】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">思考力
判断力
表現力
等</td><td>話すこと
聞くこと</td><td>自分の考えを広げたり深めたりするために、話したり聞いたりしている。【A（１）】</td></tr>
<tr><td>書くこと</td><td>自分の思いや考えが伝わるよう表現を工夫して書いている。【B（１）オ】</td></tr>
</table>

		読むこと	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【C（１）エ】 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。【C（１）オ】
	主体的に学習に取り組む態度		進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。

5. 単元構想（全14時間）

構想の柱	単元の流れ	指導上の留意点	評価
考えの根拠となる言葉に目を向けて読み、友達と考えを交流することで、読みを広げ深める	**〈みつける〉　１時間** ・新美南吉作品の読み聞かせを聞き、感想を書く。 **〈みとおす〉３時間** ・「ごんぎつね」の読み聞かせを聞き、当時の生活の様子や習慣等を捉え、読みの土台をつくる。単元計画を確認する。 ・「ごんぎつね」のあらすじと感想をまとめ、交流する。 ・「手ぶくろを買いに」の読み聞かせを聞き、心に残ったことを中心に感想を書き、交流する。	○新美南吉作品への興味付けとして、「あめだま」の読み聞かせを行う。 ○作品には、昔の暮らしが描かれている。新美南吉記念館のホームページで紹介されている「ごんぎつね」を読みながら、当時の様子や物の名前、習慣を写真等で確認する。 ○学んだことをアコーディオンブックにまとめるという見通しをもたせる。 ○起承転結を意識してあらすじをまとめ、人物の関係を中心に感想を書かせる。 ○教科書教材「手ぶくろを買いに」を読み、心に残ったことを中心に感想を書かせ、「ごんぎつね」の学習と重ねる。	・起承転結を意識して「あめだま」のあらすじを書き、感想をまとめている。 ・当時の様子や物の名前、習慣等を確認しながら聞いている。 ・起承転結を意識してあらすじをまとめている。 ・人物の関係を中心に感想を書いている。 ・人物を中心に「手ぶくろを買いに」の感想を書いている。
	〈ふかめる・ひろげる〉９時間 ・物語の場面と人物の設定を捉える。 ・１場面を読み、捕まえたうなぎをとられ怒る兵十と、いたずらをしてうなぎを逃がすごんを読み、題名を書く。【捕まえたうなぎをとられ怒る兵十、いたずらをしてうなぎを逃がすごん】（２時間）	○語り継がれた話であること、場の設定、人物設定（ひとりぼっち・小ぎつね・いたずらばかりする）を丁寧に捉え、今後の読みにつなげる。 ○場面ごとに題名をつけ、ごんと兵十を比較して読ませる。二人について題名を書くことで、兵十に思いを寄せるごんと、そうでない兵十を捉えられるようにする。 ○兵十とごんの行動に着目し、いたずらをするごんとうなぎをとられ怒鳴り立てる兵十を捉えさせる。１場面で二人が接することをおさえる。【１場面】	・場の設定と、ごんの人物設定を文章から捉えている。 ・人物の行動や心情を捉え、場面に題名をつけている。 ・いたずらがしたかったごんとうなぎを盗まれた兵十を捉え、題名を書いている。 【１場面】

	・２場面を読み、ごんの独り言が思い込みであることを捉え、題名を書く。【母親の葬儀をする兵十・自分のせいで母が死んだと勘違いするごん】 ・３場面を読み、つぐないをくり返すごんを読み、題名を書く。【いわしやにぶんなぐられる兵十・いわしや栗、松たけを届け、つぐないを繰り返すごん】 ・４場面を読み、栗や松たけが置かれることを不思議に思う兵十とその話を聞くごんを読み、題名を書く。【加助と話をする兵十・兵十と加助の話を聞くごん】 ・５場面を読み、兵十と加助の話を聞いて、ひき合わないと思うごんを読み、題名を書く。【栗をくれるのは神様だと思う兵十・神様のしわざだと思われ引き合わないと思うごん】 ・６場面を読み、ごんを撃った後にごんの行いに気づく兵十と、分かってもらえたごんの心情を読み、題名を書く。【ごんを撃ち、栗をくれたのはごんだと気づく兵十・兵十に撃たれたが分かってもらえるごん】 ・二人を追って読んできた読み手として、二人に語りかけたいことを考えて書く。〈本時８／９時間〉	○おっかあの死について、ごんの独り言「ちがいない」「だろう」に着目して読ませる。ごんのせいで死んだとは書かれていないので、思い込みを本文から確認する。２場面の後悔の気持ちが次場面からの「つぐない」にがるので、丁寧に読ませる。 【２場面】 ○「次の日には」「その次の日も」等の言葉に着目させることで、兵十への思いが高まっていることを捉えさせる。【３場面】 ○ごんにとってはつぐない、兵十にとっては不思議なことであるという、二人の心情の違いに気づかせる。【４場面】 ○「つまらない」「引き合わない」という言葉からごんの心情を捉え、６場面の読みにつなげる。【５場面】 ○兵十への思いが描かれる全ての場面のごんと、１場面以降ごんのことを考えていない兵十をおさえる。６場面で２人が再び出会うことをおさえ、読み取りを行う。 【６場面】 ○兵十の後悔の気持ち、分かってもらえたごんの気持ちを本文に着目しながら読ませる。 ○情景描写「青いけむりが…」の効果について考えさせる。 ○客観的に物語を読んできた読者として二人に語りかけたいことを書かせる。 ○教科書と草案の文章の違いを伝え、ごんの心情を捉えるとともに、自分の感想をもたせる。	・ごんの言葉をよく読み、おっかあはうなぎが食べたいと言って死んだのではないことを理解し、題名を書いている。 【２場面】 ・「次の日」等の言葉に着目し、ごんのつぐないの気持ちが強くなっていることを理解し、題名を書いている。【３場面】 ・ごんにとってはつぐない、兵十にとっては不思議であることを捉え、題名を書いている。 【４場面】 ・神様と思う兵十、引き合わないと思うごんを捉え、題名を書いている。 【５場面】 ・ごんと兵十の行動から二人の心情を読んでいる。【６場面】 ・情景描写に着目し、場面の様子や心情を読んでいる。 【６場面】 ・読者として二人に語りかけたいことを書いている。
	〈ふりかえる〉１時間 ・作品全体を捉え、物語を１枚にまとめて紹介する。	○題名、作者、作品のあらすじ（一文）、サブタイトル、作品から自分が受け取ったことを書き、１枚の用紙にまとめて仕上げる。	・本単元で読んだことをもとに、あらすじ、サブタイトル、作品から受け取ったことを書き、物語を１枚にまとめている。

6．本時の学習（〈ふかめる・ひろげる〉 13／14時間）

（1）本時の目標

・ごんと兵十の行動や心情を読み取ってきた読者として、ごんがうたれる場面を読んで、二人に語りかけたいことを考えて書くことができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1．物語をふり返る。	○1～6場面につけた題名をふり返り、物語を整理する。 ○題名を提示し、ごんから兵十、兵十からごんへの思いを言葉でまとめる。 ○1場面と6場面のみ、ごんと兵十が出会うが、その他の場面は、ごんが一方的に兵十に思いを寄せ、兵十はごんのことを思っていないことに気づかせる。 【1場面の題名】 「ごんにうなぎをとられ、怒鳴り立てる兵十」 「兵十のうなぎをぬすんだごん」 【6場面の題名】 「くりや松たけを届けてくれたのは、ごんだと気づき、うってしまったことを後悔する兵十」 「兵十にうたれたが、分かってもらえたごん」	・物語をふり返り、1・6場面のみ、ごんと兵十が出会うが、その他の場面は、ごんが一方的に思いを寄せていることに気づいている。
ごんがうたれた場面を読んで、二人に語りかけるとしたら、どんなことを語りかけるか考えて書こう。		
2．物語を読んできた読み手として、二人に語りかけたいことを書き、交流する。 一人→ペア→全体 【兵十へ】 ・うつ前にごんのつぐないに気づいてあげられたらよかったな。 ・ごんがずっと兵十に思いを寄せている姿を見て、早く気兵十にづいてほしかったな。 ・兵十は気づいていなかったけれど、ごんは、初めからずっと兵十のことを思っていたよ。だから、うたないでほしかった。 ・ごんが「同じ一人ぼっち」と兵十のことを思っていることを兵十にも分かってほしかった。	○兵十の気持ちとごんの気持ちの両方を見てきた読み手として、この二人に語りかけたいことを考えて書かせる。 ○兵十、ごんのどちらに寄り添って語りかけてもよいことを伝える。 ○6場面までにつけた題名、教材文に書いたこと、自分が読み取ってきたことをもとにしながら、語りかけたいことを書かせる。 ○全体交流の際には、語りかけたいことに理由付けをして語らせる。	・6場面までにつけた題名や学習をふり返りながら考えを書いている。 ・既習学習をふり返りながら、二人の行動や心情を読んできた読者とし客観的な視点で考えを書いている。 ・自分が語りかけたいことに理由付けをして、話をしている。

【ごんへ】 ・つぐないの気持ちを最後に兵十が分かってくれたのでよかったね。 ・なかなか兵十に気づいてもらえなかったけれど、ごんはずっと兵十のことを思っていたね。 【二人に】 ・二人がすれ違っていたことが悲しいな。もっと早く気づいてくれたら、こんなことにならなかったのに。 ・互いにひとりぼっちなので、早くに分かり合ってほしかったな。 **3．草稿を知る。**	○教科書には、「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。」と書かれているが、新美南吉が書いた草稿には、「ごんぎつねはぐったりとしたままうれしくなりました。」と書かれていたことを伝える。 ○草稿を読んで感じたことを交流させる。	○草稿を知り、感じたことをペアの友達に伝えている。

第５学年１組　学級活動（１）指導案

2026 年 11 月 27 日（金）５校時
児童数 28 名
指導者　小嶋　宏典

1. 議題　　できっこないをやらなくちゃ集会
（ア　学級や学校における生活上の諸課題の解決）

2. 議題選定の理由
○ 本学級の児童は、仲が良く穏やかで、共感的な関わりができる児童が多い。困っている友だちや上手くできない友だちに対して進んで手を差し伸べる優しい姿も多く見られる。一方で、自分の思いや考えを主張して周囲に理解してもらおうとする姿勢は控えめであり、活動においても「上手くできなくてもみんなで楽しくできたら満足」という姿がよく見られる。互いに協力する良さはあるものの、共通の目標に向かって互いに高め合ったり、目標達成のために友だちと切磋琢磨したりする姿勢には課題が見られる。話合いでは、全員で話し合う価値があることとそうでないことの区別ができず、集会活動の中で重要ではない部分に話合いが進むことがある。見通しをもつことや、何を話し合うべきか考えることに課題がある。
○ 本議題「できっこないをやらなくちゃ集会」では、単に「みんなで楽しむ集会」にとどまらず、学級全員で努力しなければ達成できない目標（記録や成功）に取り組み、その達成に向けて協力・工夫していくことを目指していく。ギネス記録や大縄などに挑戦し、学級全体で頑張ってやりきったときにみんなでやり遂げたことを喜び、達成感を味わいたいという思いで提案されたものである。ただ仲良く活動するだけでなく、難易度の高い課題に対しても互いに励まし合い、具体的に助言し合うことで乗り越える体験ができると考える。その体験を通じて、目標に向けて全員で粘り強く頑張る力や、互いを高め合う人間関係を育むことが期待できる。
○ 話合い活動では、事前の計画委員会で意見を分類整理し、話合いの柱や見通しを全体で共有しておく。そうすることで、話し合うべき内容と事前に決まっていることを全員で明確にし、焦点化した話合いができるようにする。意見を比べるときは安易な妥協ではなく、それぞれの意見にしかない良さは何か、提案理由の達成につながるのかという観点で考えられるようにする。話合いの中で「目標達成が難しいから難易度を下げよう。」といった消極的な意見が出たときは、それで本当に達成感を味わえるか、自分たちで努力して乗り越えようと思えるかと問い返し、提案理由に立ち返らせる。また、意見が対立するときは、どういう条件なら別の意見に賛成できるかを問い、解決に向けて話合いを進めることで、より多くの児童が納得感を得て決定できるようにしていく。

3. 目指す子どもの姿
・学級全員で粘り強く取り組み、達成したいと思える活動内容を考え、意見を伝える姿

4. 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「学級のみんなで努力してやり遂げたい」という提案理由をふまえて話し合うことの意義を理解し、意見を比べ合い深めていく合意形成の手順や進め方を理解している。	学級全員で挑戦し達成感を得るために自分の考えを伝えたり、友だちの意見を受けとめたりして、より良い活動内容を考えて決定している。	挑戦する活動に取り組む一員として、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを受けとめたりして達成に向けて、協働して取り組もうとしている。

5. 事前の活動

日時	児童の活動（☆全員　★計画委員会）	指導上の留意点・支援
11 月 19 日(木) 休み時間	★議題を選定、決定する	・学級目標、前回の学級会の課題を観点にして、議題を選定する。
11 月２５日(水) 学級会	☆自分の考えを学級会ノートに書き、司会グループに提出する。	・自分たちで、できるかどうかを考えながら、提案理由に沿って具体的に書くように助言する。
11 月２６日(木) 休み時間	★出された意見を分類整理し、どのように話合いを進めるか、見通しをもてるようにする。	・司会グループと一緒に意見を確認し、どのように話合いをするか見通しをもてるようにしておく。

6．本時のねらい

・「学級全体で達成感を感じられるか」という観点で意見を比べ、全員で協力して粘り強く取り組む活動内容について納得して決定することができる。

7．児童の活動計画（別紙）

8．教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら予め板書しておく	
話合いをする。 柱1「何をどのように取り組むか」 出し合う ・全員リレーの記録更新 ・全員一斉に跳ぶ大縄 ・２８人２９脚 ・２８人連続パス成功 比べる ・達成感を感じられることと、努力しなければ達成できないことという視点で比べる。 まとめる ・司会グループが決まったことを確認する。	・司会グループと共有した話合いの進め方をフロアとも共有して話合いを進める。 出し合う ・事前に話し合い、決まっていることと本時で話し合い決めていくことを確認する。 ・提案理由に沿って意見を出せるようにする。 比べる ・難易度を下げる意見が多く出たときに、本当に達成感を感じられるのか確認し、自分たちで挑戦する価値があるかどうかを比べられるようにする。 ・それぞれの意見にしかない良さを比べ、意見の価値を明確にできるようにする。 まとめる ・決まったこととなぜその意見に決まったかの理由を明確にして伝えられるようにする。	【主】 ・話合いの観点が、全員に分かるように話合いを進めようとしている。（司会） 【思・判・表】 ・出された意見の工夫や課題を受けとめ、自分の意見を深めより良い活動内容を考えている。 (司会・フロアの発表) 【知・技】 ・話し合ったことが生かされるような結論を提案している。（司会）
教師の話を聞く。	提案理由に立ち返って話し合えた姿や、自発的に意思表示できた姿を評価し、価値付ける。	
話し合いをふり返る。 ① 司会グループ ② フロア	提案理由に沿って、自分や友だちの良さをふり返られるように声をかける。	【主】 自分や友だちの良さを見つけ、めあてをふり返っている。 (ノート・発表)

9．事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月10日(木) 学級会	集会活動	決めたことを達成できずにいる児童に対し、話合いで出た意見や解決策を思い出し、工夫して取り組めるよう助言する。	【主】 達成に向けて協働して取り組もうとしている。（観察）

☆討議の柱

話合いを通して、子供のつながりと考えの深まりを生み出せていたか。

第６学年１組　学級活動（１）指導案

2026 年 11 月 27 日（金）５校時
児童数３３名
指導者　永樂　俊樹

１　議題　　つなぐ樹　～光明の思いを未来へ～
（ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決）

２　議題選定の理由

○　本学級の児童は、与えられた課題や役割に対して最後まで取り組み、行事などでは仲間と協力しながら活動を進めることができる。歌声コンテストや運動会でも、より良いものにしようと仲間と力を合わせる姿が見られた。一方で、自分の関心があることに意識が向きやすく、周囲の状況や相手の思いに目を向け、自分にできることを考えて行動することには課題がある。また、話合いでは、自分の意見を伝えることはできても、仲間の意見を受けて質問したり、考えをつないだりすることが少なく、意見を出し合うだけで終わってしまうこともある。そこで、互いの考えを認め合い、安心して自分の思いを伝えられる支持的風土を大切にしながら、仲間との関わりを通して考えを広げ、深める力を育てたい。

○　本校は、今後、学校統合を控えており、子どもたちが慣れ親しんできた光明小学校での生活も残りわずかとなっている。光明太鼓をはじめ、異学年での交流や学校行事など、これまでの学校生活には、仲間と笑い合った時間や力を合わせて乗り越えた経験など、たくさんの思いが詰まっている。そんな日々を当たり前のように過ごしてきた子どもたちが、改めて学校の良さや大切にしてきたものに気付き、自分たちの学校への愛着や誇りを感じられるようにしたい。また、異学年の仲間と思いを交流することで、自分の学年だけでは気付かなかった光明小学校の魅力に触れ、学校の一員としての自覚を高めるとともに、受け継いできたものを未来へつなごうとする社会参画の意識を育みたい。

○　指導にあたっては、まず、光明小学校で過ごしてきた日々をふり返り、心に残っている出来事や仲間との経験を具体的なエピソードとして出し合えるようにする。話合いでは、一人目の発表を起点に共通する思いを見つけ、互いの話をつないでいくことを大切にしたい。発表がつながらなくなった際には、それまでの出来事に込められた思いや価値を分かりやすい言葉で表し、光明小学校の良さを見いだせるようにする。こうした過程を繰り返しながら、それぞれのエピソードに共通する光明小学校の良さを言語化し、みんなで４つの柱を創り上げていきたい。その際、仲間の意見を受け止め、自分の考えをつないだり、新たな価値を生み出したりする話合いを通して、人間関係形成や合意形成の力を育みたい。また、他学年の児童も自分の思い出や経験を書き込めるよう、４つの柱は幅広く分かりやすい言葉で表すことを大切にする。最後には、全校児童一人一人の思いが集まった「つなぐ樹」を創り上げることで、光明小学校で大切にしてきたものを自分たちの手で未来へつないでいこうとする意欲や自治的能力を高めたい。

３　目指す子どもの姿

・仲間のエピソードを聞き、共通する思いや価値に気付く姿
・互いの考えをつなぎ、光明小学校の良さや大切にしてきたものを自分たちの言葉で表現する姿

４　評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
光明小学校での思い出や仲間との経験には、学校の良さや大切にしてきた思いが込められていることに気付いている。	仲間の意見をつなぎ、共通する思いや価値を見いだしながら、光明小学校の良さや大切にしてきたものを言葉にしようとしている。	光明小学校で大切にしてきたものを見つめ直し、仲間とともにその思いを未来へつないでいこうとしている。

５　事前の活動

日時	児童の活動　（☆全員　★計画委員会）	指導上の留意点・支援
11 月 18 日 きらきらタイム	☆議題を選定し、決定する。	「この活動でどんな学級にしたいか」という視点をもって選定する。
11 月 19 日 休み時間	★活動計画（提案理由・めあて・司会グループの役割）を作成する。	提案理由やめあてを、分かりやすく具体的に設定するよう助言する。
11 月 25 日 休み時間	★どのような話し合いになるか予想し、深める段階で出される論点を考える。	板書計画を立て順序立てて話し合えるよう司会グループに助言する。

6　本時のねらい

・今までの経験から、光明小学校の良さや大切にしてきた思いを、自分たちの言葉で表現することができる。

7　児童の活動計画（別紙）

8　教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら、予め板書しておく。	
話合いをする。 柱１ 出し合いながら、広げる ・１年生の時、縦割り班のお兄ちゃんが掃除を優しく教えてくれた。 →自分が６年生になって、昔の自分のような１年生に優しく教えてあげた。 →他学年の子から休み時間に「一緒に遊ぼう」と声をかけられて嬉しかった ・１年生からクラス替えがなく、ずっと同じ仲間と過ごしてきた。 →歌声コンテストで意見がぶつかったけど、みんなで話し合って乗り越えた。 →運動会で失敗しても責めずに励まし合い、最後までやり切った。 深める ・クラスの絆 → 安心できる仲間 ・異学年のつながり → 家族のような関係 ・行事 → 仲間と乗り越える力 ・先生との関わり → 一人一人を大切にしてくれる ・学校生活 → 挑戦できる場所 柱２　役割を決める。 ・司会、はじめの言葉 終わりの言葉、準備 決まったことを確認する。	出し合いながら、広げる ・仲間の発表をよく聞き、自分の経験と重ねたり、関連する事柄を出したりすることで、安心して発言できる雰囲気を作る。 ・仲間の発表に反応したり、共感を示したりする姿を認め、児童同士で自然に話がつながるようにする。 深める ・出された意見をふり返り、共通する思いや価値を児童同士で見いだせるようにする。 ・それまでのエピソードを十分に表す言葉を探り、納得して樹の幹に表せるようにする。	【主】 ・自分の考えを積極的に発言しようとしている。（フロアの発表） ・仲間のエピソードと自分の経験を結び付けて発言している。 （観察） 【知・技】 ・具体的なエピソードからその良さを抽象化して深めている （観察・フロアの発表） 【思・判・表】 ・他者の意見をつなぎ、価値を見いだしながら、光明小学校の良さや大切にしてきたものを言葉にしようとしている。（観察・フロアの発表）
教師の話を聞く。	・提案理由に沿って話していた児童や、つなげて、関連づけて、発表していた児童を評価する。 ・司会グループの良かった点を具体的に伝え、次の話合いへの意欲を高める。	
話合いをふり返る。 ①司会グループ ②フロア	・本時でつけた力や仲間の意見の良さを書くように助言する。	【主】 自分や仲間の良さについてふり返ろうとしている。（ふり返りの内容）

9　事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月11日(金) 学級会	集会活動	役割をやり遂げることができるよう支援する。	【主】 進んで自分の役割を果たそうとしている。（観察）

☆討議の柱

話合いを通して、子供のつながりと考えの深まりを生み出せていたか。

ふたば（知的　自閉・情緒）学級　学級活動（1）指導案

2026 年 11 月 27 日（金）5 校時

児童数　５名

第３学年　３名　　第４学年　２名

指導者　一二三　琢磨　　池内　純　　栗之池　陽子

1　議題　　末成小学校の友達と交流会をしよう
（ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決）

2　議題選定の理由

○　本学級の児童は、自分の思いを言葉にして表現できる児童、思っていることをなかなか言うことができない児童、自分の意見を持つことも難しい児童などそれぞれである。自分の意見を言うことができても、友達の意見を聞いて反応することが難しい児童もいる。通常のふたば学級の話合い活動では、１年生から６年生までそろって進めているが、今回は学校統合した時に高学年となる３、４年生が話合い活動を進めていく。いつもは高学年が司会グループを担当しているので自分たちが司会をすることはほとんどなかったが、今回の議題では自分たちが中心となって進めていくことで、自分事として話合い活動に参加してほしいと思う。少人数の話合いの中で、自分の意見を素直に表現し、お互い認め合える関係を築かせたい。

○　本議題は、２０２８年度に学校統合する末成小学校の特別支援学級の児童と 12 月に交流会を開くために、ふたば学級としてどんな交流会にしたいのか、みんなで話し合っていきたいという思いから選定されたものである。はじめて出会う友達とどんなことをしたいのか、どんなことをすれば仲良くなることができるのか、異学年の友達とも交流できる楽しさにも気づくことができる議題である。みんなでどんなことをしたいのか、どんな工夫ができるのかについて考えることで、思考に広がりが生まれると期待している。

○　話合い活動では、事前に末成小学校の友達と出会うことへの期待や不安を全員で共有することができた。提案理由を理解し、自分たちが新しく出会う友達と何をしたいのかを考えさせる。交流会でどんなゲームをしたいのか考えたり、必要な準備物について考えたりさせることで意見を出しやすくする。友達の意見も参考にしながら話し合いをすることで、仲良く過ごすためにはどんなことができるのか自分なりに考えてほしい。自分の意見を通すだけではなく、友達の意見も取り入れてより良い交流会ができるように支援していく。

3　目指す子どもの姿

・自分の意見をわかりやすく伝えたり、友達の意見を聞いたりする姿
・交流会について具体的な場面を想像して、自分たちにできることを見つける姿

4　評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
みんなが仲良く活動するための工夫について話し合うことを理解している。	仲良く活動する方法を具体的に考え、自分たちにできることを決めている。	決まったことを生かしながら、協働して交流会に臨もうとしている。

5　事前の活動

日時	児童の活動（全員で行う）	指導上の留意点・支援
１１月１１日 ふたばの会	☆議題を選定する。 ☆活動計画を立てる。	何を、何のために話し合うのかを全員で確認し、見通しが持てるようにする。
１１月１７日 ふたばの会	☆みんなで交流できる内容について考える。	具体的な内容について意見が出せるように助言する。

6　本時のねらい

・交流会で取り組みたいことについて具体的に考えることができる。
・意見を交流し、自分たちにできる工夫を決めることができる。

7　児童の活動計画（別紙）

8　教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。		
話合いをする。 柱　末成小学校のチャレンジと光明小学校のふたばでどんな交流会を開きたいか **出し合う** ・自己紹介ゲーム ・じゃんけん列車 ・フルーツバスケット ・クイズ ・ドッジボール **比べる** ・仲良くなるための工夫について考える。 ・ゲームのルールについて考える。 ・必要な役割を決める。 **まとめる** 決まったことを確認する。	**出し合う** ・はじめて出会う友達のことを想像しながら、何をしたら仲良くなれるのかについて考えさせる。 **比べる** ・具体的な交流会が想像できるよう、実際にゲームをしてみる方法があることを助言する。 ・これまでの経験を思い出し、そこからどんな工夫ができるかについて考えるように声をかける。 **まとめる** ・出た意見が自分たちにできるか、確認するよう促す。	【知・技】 ・柱に沿って、自分の考えを具体的に伝えている。（発言の様子） 【思・判・表】 ・実際の交流会を想像しながら、考えている。（観察） ・全員が話合いの内容を理解しているか、確認しながら進行している。（進行の仕方）
教師の話を聞く。	・自分の考えを具体的に伝えたり、質問したりしたことについて評価する。 ・全員で話合いを進めようとした司会グループの働きについて具体的に評価する。	
話合いをふり返る。	・交流会に対する思いを出せるように支援する。	【主】 意欲的に自分の役割に臨もうとしている。（発言の様子）

9　事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月2日 ふたばの会	具体的な活動内容の話合いをする。	主体的に発言したり、工夫を考えたりできるようにする。	【主体的に取り組む態度】 合意形成したことをもとに、進んで活動しようとしている。（観察・計画内容）
12月9日 交流会	みんなで交流会をする。	話合いで決まったことを確認して交流会に参加できるようにする。	【思考・判断・表現】 協力して活動したり、友達の良さを見つけたりしながら活動している。（観察）

☆討議の柱
　少人数での話合い活動では、互いの意見を生かし、自分の意見を伝えることができていたか。